

水 泥 新 聞

第四一号
2018年(平成30年)5月5日



編集

フジクリーン工業株式会社

〒四六四・八六三

愛知県名古屋市中種区今池

四丁目1番4号

TEL

〇五二・七三三・〇三二五

大型浄化槽の 機器交換に役立つ 補助金制度がスタート

平成29年度からスタートした、省エネ型大型浄化槽システム導入推進事業(二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 ※以下、本補助金)。平成30年度から対象範囲が拡大し、さらに温室効果ガスの削減に大きく寄与することとなった本補助金を詳しく紹介する。

中・大型浄化槽の 機械設備の 省エネ化を促進

家庭に設置された小型浄化槽は、高効率プロワの普及が進んでいることから低炭素化が図られているが、集合住宅や病院などの施設に設置された中・大型浄化槽においては、低炭素化への取り組みが遅れていると言わざるを得ない。その対策として、環境省廃棄物・

リサイクル対策部は、平成29年度から本補助金をスタート。これにより、中・大型浄化槽に必要な機械設備の省エネ化促進を図っている。具体的には、101人槽以上の既設浄化槽の処理工程におけるエネルギー起源二酸化炭素の排出にかかわる高効率な機械設備(高効率プロワ、インバーター制御装置など)の導入・改修に必要な費用の2分の1が補助される。



▲ばっ気ブロワ交換事例(上)交換前(下)交換後

フジクリーン工業請負実績(抜粋)

実績1 神奈川県のおフィスビル

導入から10年が経過した屋外設置プロワだけでなく、ポンプ及び周辺機器の交換時期も迫っていたため、補助金の申請を提案。その結果、交換が必要とされる全ての機器において、補助金が交付された。



◀交換した中継ポンプ(左)交換前(右)交換後

- 総工事費：9,600,000円(税別)
- 補助金：4,800,000円
- 年間削減電気量：8,499.61kw
(電気代換算(想定)：8,499.61kw/年×18円/kwh≒15.3万円/年)
- 年間削減CO₂：4.2t
- 交換した機器：●ばっ気プロワ1系
●ばっ気プロワ2系 ●原水ポンプ ●計量ポンプ ●汚泥ポンプ ●循環ポンプ ●吸引ポンプ ●中継ポンプ ●凝集剤添加ポンプ ●メタノール添加ポンプ ●微細目スクリーン ●水位計

実績2 北海道の宿泊施設

宿泊施設のばっ気プロワが故障。施主は、オーバーホールと新品購入の料金があまり変わらないことから、新品購入を決定。さらに補助金制度の利用を提案し、申請手続きの支援も行うことで採用に至った。

- 総工事費：767,000円(税別)
- 補助金：383,500円
- 年間削減電気量：2,013kw
(電気代換算(想定)：2,013kw/年×18円/kwh≒3.6万円/年)
- 年間削減CO₂：1.0t
- 交換した機器：●ばっ気プロワ



▲交換したばっ気プロワ(左)交換前(右)交換後

営業担当の 声

申請にあたっては、まず全国浄化槽団体連合会に問い合わせをして、仕組みをよく理解することから始まりました。補助金の対象範囲は機器以外に工事費も対象となることがあるため、特に確認が必要です。施主様へは、交換が必要な機器だけでなく、長期修繕も視野に入れた提案をすることが重要だと感じています。



▲フジクリーン工業 東京支店 維持管理担当課長 佐藤 寛之

平成30年度から 浄化槽の交換も対象に

平成30年度には、浄化槽機器交換の対象が101人槽以上となっていたところ、51人槽以上へと範囲を拡大。さらに、101人槽以上の既設浄化槽で、かつ旧構造基準の浄化槽(フロワを使用するものに限り)を省エネ型浄化槽に転換する際も、2分の1の費用が負担されることとなった。

予算についても、平成29年度の10億円から、平成30年度は16億円へと大幅にアップ。これにより、浄化槽システム全体の低炭素化に大きく寄与するだけでなく、老朽化した中・大型浄化槽の長寿命化も可能になる。

平成29年度と平成30年度の 対象範囲・予算を比較



101人槽以上の 浄化槽転換には 現地調査が不可欠

現在、国内に設置されている旧構造基準の101人槽以上の浄化槽は、全国に約2万4千基(平成27年末、環境省浄化槽推進室調べ)設置されている。

大型浄化槽の転換には、綿密な現地調査により既存の配管や電気系統などの位置を正しく判断し、最適な施工を施す経験と知識が必要。施工にあたっては、既存浄化槽の廃止届、新設浄化槽の設置届、特定施設の排水処理計画書(特定施設に該当する場合)、放流同意書などの作成、提出が求められる。

101人槽以上の浄化槽の転換工事の費用は、1本管



▲大型浄化槽の本体交換工事風景
(上)既設浄化槽の撤去(下)新設浄化槽の設置

体(山留・土木工事含む)で1、300万円)。これまで大型浄化槽の転換実績を持つフジクリンは、現地調査に基づいた施工提案能力や、豊富な施工経験により、最適な転換を実現する。

本補助金の 申請について

平成29年度からスタートしている本補助金。申請者には資格要件、補助金交付後の責務もあるので注意が必要。募集期間は、平成30年4月から10月31日まで(予算満額となった場合は、その時点で募集終了)。申請書式は、全国浄化槽団体連合会のウェブサイトからダウンロードできる。

複雑な 申請手続きを支援

申請など各種手続きは、環境省ではなく、環境省が選定した補助事業者である全国浄化槽団体連合会へ行うことになる。

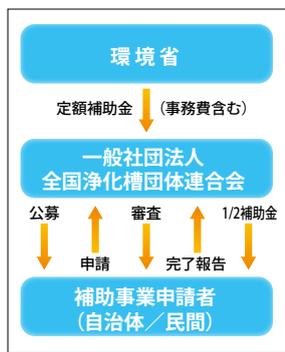
実際の申請には、補助金申請額だけでなく、実施計画書、CO2削減効果計算書、補助事業に関する経費、補助事業の開始及び完了予定日など、大量の提出書類が必須。CO2削減効果計算書には、削減電気量

全浄連スタッフの 声

環境省が進める省エネ改修事業は、一般社団法人全国浄化槽団体連合会(全浄連)が補助事業者として補助金の申請を担当しています。昨年は7月から12月までに179件の申請があり、補助金交付申請額は18、370万円、総事業費は36、746万円となりました。それに伴い、二酸化炭素削減量は約460トン以上で、結果を残しています。

我が国は2030年度までに2013年度比で26%の温室効果ガス排出量削減を目標

に係数を乗じて算出した二酸化炭素の削減量を記載する必要がある。フジクリンは、申請手続きに必要な情報を提供し、作業を支援することで、申請者の負担軽減に一役買っている。



▲一般社団法人
全国浄化槽団体連合会
事務理事事務局長 佐々木裕信氏

としています。長期的な観点では、2050年までに温室効果ガスの80%削減を目指しています。当事業は浄化槽システム全体の低炭素化、長寿命化だけでなく、地域の低炭素・自立分散型生活排水処理システムの構築も促進。今後は地方創生、国土強靱化、国際貢献にと強く期待されています。